

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 調査事件

(1) 函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設整備の方向性について（中間報告）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、本日付で資料が配付されているので、説明を受けるため理事者の出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ 理事者の入室を求める。

（経済部 入室）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ それでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、着席したまま説明をお願いします。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 資料説明：函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設整備の方向性について（中間報告）
（令和3年9月10日付経済部調製）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ お聞きのとおりだが、ただいまの説明について、各委員から何か発言あるか。

○工藤 恵美委員

- ・ ちょっと戻るのかもしれないが、基本的なところで、再開発事業における公共施設整備の中間報告だが、これはあくまでも今想定する大きなエリア、建物の中の公共施設として何を造るかという説明なのか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 現在再開発事業においてはホテル棟、マンション棟、それから商業棟が2つあるのだが、1つは飲食街になっている。商業棟は4階建てになっており、間に全天候型の交流広場を整備する予定なのだが、今整備を考えている公共施設については、4階建ての商業棟の3階と4階の部分と考えているところだ。

○工藤 恵美委員

- ・ その3階と4階のエリアを公共施設として利用すると、それに何を入れるのかという報告ということでもいいのか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 資料で説明したとおり、新たな公共施設の役割だが、「子どもから高齢者まで性別を問わず集い交流する施設」が望ましいと考えている。役割が重複するような女性センター、谷地頭老人福祉センター、ふらっとD a i m o n、東川児童館、千歳図書室、これら5施設等を今後関係部局と話しながら、統廃合について検討し、その2フロアを利用したいと考えているところだ。

○工藤 恵美委員

- ・ これから各施設と調整する、相談するということなので、今後の動向を見守りたいと思うが、今現在は駅前かいわいに住宅地がない状態だ。キラリスの上はマンションだが。東川児童館を利用しているのは西部地域というか十字街、青柳町だとか、東川町には市営住宅もあるのでその辺の子供たちだと思うが、遠いところの繁華街に入ってきていいのかなとも思う。女性センターに関しては、前から建て替えや改修が要望されていたので、いいのかなと思う。じっくりゆっくり関係する方々と話をして決めていただきたいと思うし、また、既存の施設だけでなく新しい公共施設、その他にも何か考えられる公共施設があるのか。それと国の補助事業ということだが、補助事業に対する規制があるのか教えていただきたい。

○経済部長（小林 利行）

- ・ まず、新たな公共施設の統廃合が考えられるかということだが、この施設の役割を説明したとおり、「子どもから高齢者まで性別を問わず集い交流する施設」が望ましいと考え、その施設の設置を目指していきたいということで、周辺施設についてはある程度どのような公共施設が統廃合できるのか検討したところだが、現時点ではこれらの役割を果たす近郊の公共施設については、今回資料のほうで示した5施設ということで、これから新たな公共施設、そのほかの公共施設の持つ役割を付加するとか、また別のものをこちらに持ってくるのかということでは現時点では考えていないところだ。
- ・ 補助事業の制約ということだが、こちらについては都市建設部のほうからも報告があったが、立地適正化計画における補助事業、都市構造再編集集中支援事業ということで、いわゆる立地適正化計画の居住誘導に寄与するような事業ということなので、基本的には新たな公共施設の設置はおおむね認められるのではないかと考えている。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 今の経済部長の新たな施設を付加することは考えていないという話で、今ある5施設——女性センター、谷地頭老人福祉センター、ふらっとDaïmon、東川児童館、千歳図書室、これを統廃合してやっていく考えということがわかった。今日が9月10日の委員会だが、8月24日——先月だが、函館市公共施設等総合管理計画の一部改定が出された。その中で公共施設やそういうものの函館市全体の総合管理計画が出たのだが、その中の分類が廃止する、それから類似施設の統廃合、それから複合化を図っていくという3つに分かれていると思うが、今回の公共施設整備の方向性はこの管理計画に基づいて進んでいると思うが、いかがか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 新たな公共施設の公共施設等総合管理計画との整合性についてだが、基本的に今回示した施設については、新たな公共施設の持つ役割と重複する役割があるということで示させていただいたところで、今後、その統廃合についてどんな役割が機能移転できるのか、そういったことで集約できるのか統廃合できるのか、こういったものを検討していきたいと考えているところであり、この公共施設の管理計画の中で個々別々の施設については、各施設の今後の方向性についての資料が平成26年に一度財務部のほうから出されている。今後協議が進む中でその必要性があれば見直しをかけていくことになり、現時点でも基本的には統廃合が必要な施設を基本としたピックアップになっている。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 管理計画を見ると、統廃合というのはあくまでも類似施設ということになっている。今ここに統廃合を検討する施設として載っている5施設はそれぞれ役割が違うと思うのだが、管理計画の中の方向性で言うと複合化という分類に当たると捉えていいのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 単純に同等の機能を複合化、3つの児童館を1つにするということではないので、分類的には複合化に当たると思うが、どこの分類にして計画を見直すのかについては、今後所管の財務部とも協議させていただきたいと思う。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 今後のスケジュールを見ると、今日——9月に中間報告をしていただいた。今年の12月には方向性を公表すると。そうすると経済建設所管だけではなく、特に民生とかが多いと思うが、他の施設とこれからゆっくり話し合っていくというには時間がどうなのかなと思うが、あくまでもこの公共施設の主体を考えて進めていくのは経済部がやっていくということによろしいのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 新たな公共施設の主管としては、経済部が主管となるというふうに考えている。ただ、関係する部局もあるので、十分に連携をとって、見直し計画等については策定していきたいと考えており、時間がない中ということでの御指摘だが、今回この9月に方向性の中間報告をさせていただいたが、再開発事業が民間事業として計画がある中で、私どもは公共施設を検討するということで、現実タイムなスケジュールの中でこういったものを考えていく必要があると思うが、可能な限り丁寧に議会にも説明し、市民の皆様にも情報を提供し、意見をもらえる場についても考えていきたいと考えている。

○斉藤 佐知子委員

- ・ この公共施設、先ほど商業棟の3階及び4階に設置する方向性だという話で、ここの再開発準備組合ではホテル棟やマンション棟とか他の商業棟とかいろいろな建設があるのだが、そこよりも先に公共施設だけができるわけでもないし、そこと同時並行になっていくのかなと思うが、他の進捗状況はどうなっているのか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 再開発においては、現在準備組合が事業計画を進めているところだが、現在の作業とすると基本設計を進めていると聞いている。公共施設の整備については、今後準備組合のスケジュールと同様のスケジュールで進んでいくものと考えている。

○島 昌之委員

- ・ 函館の顔というエリアであり、にぎわいを創出するということろだと思うが、5月13日の委員協議会で小林部長が住民からの声を聞くという部分についても改めて検討してみたいと発言をされているが、約4か月経過して今日に至るが、具体的にどのように住民からの声を聞くということで検討してきたのか、これまでの経過についてお聞かせ願う。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 先ほども答弁させていただいたが、市民の皆様の声も聞いていきたいということで、前回の5月13日の委員協議会でも様々検討していきたいと答弁したところだが、現時点で考えているのが、この方向性を年内には成案化したいと考えているところだ。そういった方向性についても市民の皆様に説明する場を設けていきたいと考えているところだ。また、この方向性が出て、整備計画、次の段階に移るのだが、その整備計画も成案化される前には議会に諮り、パブリックコメントもかけていきたいと思っているところだ。また、関係部局と今後協議していくが、各施設の利用団体やそういったところと話す場があれば、そういったところでも丁寧に説明させていただきたいと考えている。

○島 昌之委員

- ・ そうするとある程度原案、たたき台といったものをつくった上で、住民や関係者と意見交換をしていくというような形で、住民の声を聞いていく考えということで理解していいか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 基本的にはまず住民の皆様なり議会の皆様に示す原案をつくり、その意見を聞く、また、その修正をする中でその考え方を修正するなり、そういった形の考え方で進めていきたいと考えている。

○島 昌之委員

- ・ 5月時点では住民の声、市民のニーズをどうやって把握するかだが、例えばアンケートをとってはどうかということに対しては、それは難しいと答えられていたと思うが、その辺の市民のニーズをキャッチする方法についてはどのように考えているのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 前回5月の委員協議会の際には白紙の状態アンケートをとることにより、多くの意見が出てくるので、白紙の状態でのどのような施設がいいのかというアンケートは難しいと話させていただいた。どのように声を吸い上げるかは、先ほど言ったように市民の皆様、要は利用者団体に限らず、広く全市民を対象とした説明会も開催したいと思っているので、そういったところで市民の皆様の意見を吸い上げられればと考えている。

○島 昌之委員

- ・ そうするとある程度まとまった時点で説明会を開催して市民のニーズを把握する、考えを聞くということか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 先ほども答弁させていただいたが、方向性を本日中間報告させていただいたが、年内には方向性について成案化させていただきたいと考えているところであり、成案化された方向性について市民の皆様を対象に説明会を開催していきたいと考えているところだ。

○島 昌之委員

- ・ これからの進め方について了解した。
- ・ 再開発準備組合から図書館機能、それから交流機能、こういうものを有したものを設置してほしいということで、図書館機能が今回示された市民の誰もが学べる場、充実した図書コーナーということなのか。充実した図書コーナーというのが、イコール図書館機能なのかどうかということがピンとこないのだが。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 準備組合からは図書館機能ということで、図書館をということではなくて、機能をという要望があったのだが、要は図書館機能を持つような充実した図書コーナーを設けていきたいという考え方であり、どのような図書コーナーにしていくのかについては、現在千歳図書室を所管している教育委員会と今後どのような図書コーナー、図書館機能を持たせるのかを協議させていただきたいと思っている。

○島 昌之委員

- ・ 例えば、函館に視覚障害者図書館というものがあいよる21にある。ただし点字図書館にはいろいろな設置基準があり、これを満たさないために国からの補助金とかが全く入ってこなくて、市からの補助金が今年度はちょっと多かったのだが、大体年間30万円くらい。点字図書館やそういったものは非常にニーズがあるのではないかしらと思うし、交通の結節点ということもある。それなりに設置基準を満たさないとだめなのだが、実際に今視覚障害者図書館の運営はNPOがやっているわけだが、そういうことをきちんとやれるノウハウはあると思うが、残念ながら設置基準を満たしていないので、中々次の展開が思うようにいっていない。片や中央図書館には点字図書や様々あるのだが、貸出しはほとんどない。なので、そういうものを合体したような点字図書館、国の基準にきちんと合致するようなものを今回の図書館機能、充実した図書コーナーの中に検討するという考えはないか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ ただいま提案いただいた点字図書館、大変不勉強で申し訳ないが、どういう形の施設をもって点字図書館というのか私のほうでまだ勉強不足なのだが、配置する図書やボリュームについては、今後所管の教育委員会とも十分に協議させていただきたいと思っている。ただ、ここからここまでが点字図書館というような形での整備はもしかしたら中々難しいのかなと思っている。

○島 昌之委員

- ・ 函館市には北東北と北海道をエリアとする視力障害センターがあるので、そういう意味ではそれなりのニーズがあると思うので、ぜひ検討の1つとしてお考えいただければと思う。

○松宮 健治委員

- ・ 個々のことの意見ではないのだが、函館駅前東地区市街地再開発準備組合が主体ですよ。市が主体ではないと認識しているが、補助金の活用の中に都市構造再編集集中支援事業の補助金を活用するとあるが、今調べてみると立地適正化計画だとかあるいはコンパクトシティの推進に関わる補助金と承知しているので、こういったものを使ったときに、補助金を使うことは反対ではないのだが、主体は民間だったとしてもそこに市が関わるということは市の責任も、応分の負担もあると思っているし、補助金の責任もあると思うので、基本的にきちんとやっていると思うが、失敗は許されないだろうと思う。そういうときに同列ではないのだが、青森市駅前にアウガという複合施設がある。当初は民間主導でやってきたのだが、経営破綻をして、市としてかなり補助金を出して、今は市役所だとか図書館が入ってほとんど公共施設みたいな形になってしまっている。失敗例とよく言われることだし、結果的には市役所が移転すればそれもいいんじゃないのという意見もあるが、この話を聞いたときに青森のアウガのことがよぎって、そこの違いというか、こういうことにならないということを確認したいのだが、アウガのようなことになるおそれはないのか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ 青森駅前再開発ビルのアウガについてのお尋ねだが、当該ビルについては、当初地下1階から地上4階までを商業施設として、5階から最上階の9階までを公的施設として整備したが、商業施設のリーシング事業を行っていた第3セクターの運営会社が厳しい経営状況により解散し、商業施設は閉鎖され、その後、地上1階から4階までのフロアを市の庁舎として活用しているところだ。ビル整備当初から入居している青森市民図書館については、入館者数は年間約50万人程度で推移しており、一定の利用があると聞いているが、現在計画されている函館市の再開発事業については、商業部分に入居するテナントの誘致はイオングループが行うことになっている。それは市と書面で交わした協定書に記載しているものであり、責任を持ってイオングループが関わっていただいているところなので、そういった部分では第3セクターで運営していた青森とは実際にイオングループが関わっているリーシングの状況が違うものと認識している。ただ、引き続きイオングループには責任を持って関わっていただくように市としても伝えてまいりたいと考えている。

○松宮 健治委員

- ・ それはそのとおり信じればいいのだが、万が一イオンが手を引くということもあり得る。じゃあそのときどうするのか。函館の経済界だとそれは引き受けないだろうし、そうなると市も2フロアを利用するということで市に何とかできないのかという話になっていかないとも限らないですよね。そういう心配はないのか。

○経済部商業振興課長（東出 瑞乃）

- ・ イオングループと締結した協定書において、仮に経済的な諸条件で事業が確保できないやむを得ない事情になった場合も函館市とこういった駅前という立地特性に鑑み、改めて整備や活用のあり方については誠意を持ってイオンと協議するという協定書の内容になっているので、仮に何か経済的な事情で困難になっても引き続きまた新たな計画を協議していくような約束をしているところだ。

○紺谷 克孝委員

- ・ 松宮委員の話の中で補助金の話があったのだが、補助金をもらう条件の中に統廃合をするということが条件として入っているのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 公共施設整備の補助金に関しては、統廃合が前提となっている補助金ではない。施設整備のための補助金だ。

○紺谷 克孝委員

- ・ 島委員の話で住民の声を聞く必要があるという話があったが、これはやはり市役所が仮に造ったとしても市民との合意なり理解を得るということは非常に大事なことだと思う。それが計画の中にきちんと座っていない。例えば今後のスケジュールでも役所側がやっていく計画だけで先ほどいろいろ言われていた市民との話し合いを持つとか利用者との説明会をやるとかそういうことが計画として入っていない。これは市民軽視のスケジュールになっているのではないかと。

○経済部長（小林 利行）

- ・ このたび示した計画については、まずは整備ということを主眼に整備のスケジュールを示したところであり、先程来申し上げたように市民への説明会、パブリックコメント、あと必要に応じて利用者との意見交換会、こういったものを開催していきたいと考えており、資料の中にそういったもの

の記載がないということでの指摘だが、まずは整備計画を示したかったということで、この資料の作りにしたということで理解いただきたい。

○紺谷 克孝委員

- ・ やはり先ほども言ったように市民の理解が得られない計画というのは今の時代はあってしかるべきでない内容だと思う。そういう点では市役所が利用するのではなく、市民が利用するので、その市民の人たちの意見を反映させるということも含めたスケジュールをきちんと立ててもらわないと勝手に市役所が決めて全部造ってしまうのだと、今回の提案だとそういうふうに捉えられる可能性があるので、再度練り直してきちんと市民とのコンセンサスをとっていくという内容にしていきたいと思います。
- ・ 亀プラの施設を造るとき、それから五稜郭にあるGスクエアを設置するときにそれぞれ市民や青年、若い人たちの意見をそれなりに反映した経過があったと思う。亀プラのときは懇話会を3回開催して様々な使用される団体や地域の人たちからの意見を反映させながら、確か3回開催してそれぞれいろいろな意見があったと聞いている。Gスクエアの場合も若者の意見をそれなりに反映して、十分不十分はあったと思うが、やはりそういう市民とともに施設を造っていくということが、さっき言ったスケジュールの点でも全体的な計画の中でも抜け落ちているのではないか。今の時代は市民の意見を反映させて造っていくというのがどこの施設でも基本になっている。そういう点でもう少し市役所の官製の考え方だけでなく、様々な専門家も含めて意見を聞いていくと。前回の議会で私が質問したとき専門家の話を聞いていきたいという答弁があったはずだ。それが今回何も反映されていないと。相当月数がたっているが、そういうことについて、基本的な考え方としてどうなのか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 決して市民意見を聞かないで造るということではない。資料の作りとしてそういう部分の記載がないということで、そちらについては今後成案化する際に市民意見を聞くスケジュールやパブリックコメントをするスケジュールも成案化する中で記載させていただきたいと考えている。また、専門家の意見、いろいろな方の意見を聞くべきだということで、先程来申し上げているような市民の説明会や利用者の懇談会、パブリックコメント、こういったものの他に施設整備計画をする際に専門家なりそういった方の懇話会を整備計画をつくる際に整備計画の受託事業者に戻してもらう。こういったものも現時点で検討しているので、最終的にどういった方法で意見を聞くのかについては、12月の成案化に向けてきちんと示していきたいと思っている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 先ほどスケジュールの話があったのだが、小林部長の話のスケジュールから考えると今の提案で12月までに案をつくっていくということはなかなか期間として難しいと思う。そうすると市民の声、専門家の声を十分に聞かないままの計画になってしまうという危険性もこのスケジュールでは想定されるので、そこは時間をかけてそれなりにきちんと、市民のための施設なのでそういうような時間をもってスケジュールについてもゆとりを持って進めるということをお願いしたいと思う。
- ・ 島委員から図書館のことについて、図書コーナーと言葉として出ているが、これは亀田交流プラザのときにいろいろ図書館が大きく問題になって、図書館機能がなくなったことで他の図書館との貸

し借りの手続きを結んで、貸し借りができなくなってただの図書コーナーになったという経過がある。そういうことも想定されるということか。

○経済部長（小林 利行）

- ・ 新たな公共施設が持つ図書コーナーの機能についてだが、当然役割を集約化するということで機能を移転できるかどうか、今後所管である教育委員会と協議をさせていただくが、具体的にどういったコーナーにしていくかどうかは今後協議していくことにはなるが、できるだけ市民の皆様が利用しやすいような施設、また、充実した図書コーナーということで示させてもらっているが、何冊かということではなく、充実した図書コーナーを設けていきたいと、そのほかに本のやりとりができる機能ができるのかできないのかということも今後関係部局と協議させていただきたいと思っている。

○紺谷 克孝委員

- ・ 千歳図書室は、昔図書館が函館公園にあったときに第一分館ということでNHKの前にあった。今ある、例えば旭岡とか湯川にある図書室などなどと比較しても充実した機能を持っているし、今の千歳図書室はスペース、面積を見れば他の図書室と比較しても充実度が違うわけだ。そして過去は函館公園の図書館が地域の端のほうにあったので、そこへ行けない人たちが千歳図書室——第一分館を利用するという機能を果たしてきた経過がある。したがって今の千歳図書室を仮に統合して、新しい施設に持って行くということになると函館市としては決して現在持っている千歳図書室の機能を下げる、ダウンさせるということは考えないで、移転させるのであれば同じ機能を持った図書室ということを継続してやっていただきたい。今、亀プラの中の図書コーナーについては、美原地域でアンケート活動をしたら、市民の中からやはり過去の福祉センターがあったときの図書館機能に戻してほしいという要望も集約しているところだ。ぜひそういう市民の声もあるということでお聞きになって、さらに建設するまでに先ほど言った市民の声も十分反映していただきたいと思う。
- ・ それと函館市西部地区まちづくりシンポジウムが8月28日に函館市のほうで開催されて、様々な方が出席されて、専門家も出席されて、私もユーチューブで見させていただいたのだが、その中で松井 直人さんという会社の副社長さんが話していたのが、西部地域が衰退した大きな原因として公共施設が撤退したことがあり、その一番の公共施設としては市立函館病院だったと。市立病院が移転したことで西部地域が大きく衰退したというようなことを提言されていた。考えてみれば市立病院だけでなく図書館も撤退しているし、公共施設がどんどん撤退している。そのことが専門家に言わせてもやはり西部地域の衰退に拍車をかけたと、ドックのことも言っていたが、そういうふうに言われている。市立病院ほど大きな役割を果たしているとは思わないが、西部地域にある様々な公共施設がなくなるということはその町の衰退を助長するということは間違いないと思う。専門家もそのように言っている。市が主催したシンポジウムでもそういうことが言われており、その中身を十分しんしゃくしてまちづくりに生かしてほしい。公共施設は可能な限り残していくと。児童館があれば、先ほども話があったようにその付近の子供たちが来て、遊び学ぶ。やはり子供たちを育てられる地域として児童館を残すということも十分考えて、函館市主催のこのシンポジウムの中身を十分生かすような内容で考えていただきたいということを強く要望する。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言あるか。(なし)
- ・ 理事者におかれては、本日の議論を踏まえ今後の対応を進めていただきたいと思う。
- ・ 理事者にはご退出願う。

(経済部 退室)

- ・ その他、本件について、各委員から何か発言はあるか。(なし)
 - ・ 議題終結宣告
-

(2) 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書について

○委員長(小林 芳幸)

- ・ 議題宣告
 - ・ 本件については、北海道森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会から、森林資源の循環利用による林業・木材産業の成長産業化の実現に向け、国に対し、意見書の提出をお願いしたい旨の要望書の提出があった。正副としては、要望書の趣旨が理解できるものであるので、当委員会から意見書案を提出したいと考えている。意見書案については既に委員の皆様へ配付している。
 - ・ 配付のとおり意見書案を当委員会から、議長に提出したいと思うが、これに御異議ないか。(異議なし)
 - ・ 条項、字句の修正については、委員長に一任願いたいと思うが、これに御異議ないか。(異議なし)
 - ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長(小林 芳幸)

- ・ 各委員から何か発言あるか。
- ・ 散会宣告

午前10時49分散会